

平成 30 年 3 月 1 日に思う

「木との関わり」は「人とのつながり」でもあります。これを物語るのが、先月川上総合センターやまぶきホールにて開催された「川上村木匠塾 20 周年記念フォーラム」です。

「木匠塾」とは、主に住環境や建築を学ぶ学生たちが川上村に集まり、村での集団生活や、間伐作業やその材を使った制作物の作成などの林業体験を通じて、村の暮らしや吉野林業についての理解を深めてもらうことを目的に毎年開催されている取り組みです。

その発端は今からちょうど 20 年前、林業不振にあえぐ本村が林業の再生に取り組む日々の中、林野庁の職員のアドバイスで建築家の三澤文子氏にお会いすることが出来ました。「木」に深い愛情を持った彼女は、会うなり「日本の木の文化」について熱く語り、語気を強めながら「なかでも吉野林業はその中心的な役割を果たすべきである」と熱弁されました。さらには「大学で木を学ぶ学生たちに林業の実態を教えてやってほしい」と付け加えられました。このご縁がすべてのはじまりであり、「お互いの将来のために」として滋賀県立大学や大阪工業大学など 5 つの大学が集う「川上村木匠塾」

が誕生したわけです。

“木を使うことは、山や自然を守り、雇用や経済を生むことにつながる”

このことを理解し、川上村と“つながり”をもった若者たちが広く社会で活躍してくれることで、吉野林業の、そして川上村の発展につながるかと私は確信しています。

今回のフォーラムには、創立当時の先生や多くのOB・OGたちも集まり、これを機に「新たなつながりを築きましょう」と、嬉しい話に発展しました。

そのためにも、事務局のあり方などを精査し、早急に具体化を図りたいと思います。

林業や木材業の再生に向けて「吉野かわかみ社中」が活発化する中、また夢がふくらむ一日になりました。水源地の村づくりをめざすうえで必要不可欠であるこれらの取り組みを、今後もより一層推し進めていく覚悟です。